

- 問1 三重県の志摩半島や岩手県の三陸海岸などで見られる、山地の谷が沈んだり海面が上昇したりすることによって、岬と湾が複雑に入り組んだ形になった海岸を何というか。 (2016年 山口県公立入試 類似)
1. 三角州                      2. カルデラ                      3. 砂州                      4. リアス海岸
- 
- 問2 地形図から特定の地域の土地の様子を読み取る際、等高線の間隔が非常に狭くなっている場所について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 島根県公立入試 類似)
1. 傾斜が急な崖や急斜面になっており、短距離で標高が大きく変化している。                      2. 周囲よりも標高が高い尾根筋にあり、雨水が左右に分かれる境界となっている。                      3. 標高が海面よりも低くなっており、干拓地や大規模な凹地である可能性が高い。                      4. 土地が平坦であり、住宅地や田畑として利用するのに適している。
- 
- 問3 日本の福井県北部にある若狭湾周辺などの統計資料において、海岸線が非常に長く、岬と湾が複雑に入り組んでいる様子が示される地形を何と呼ぶか。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 干潟                      2. リアス海岸                      3. 砂州                      4. 三角州
- 
- 問4 日本アルプスを構成する3つの山脈の位置関係について説明した文として、正しいものはどれですか。地理的な配置に基づいて選びなさい。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
1. 長野県の中央部にある木曽山脈が最も北側に位置し、その南に飛騨山脈、さらに太平洋側に面して越後山脈が並んでいる。                      2. 最も北側に静岡県まで達する赤石山脈があり、中央部に飛騨山脈、最も南側の岐阜県境に木曽山脈が位置している。                      3. 山梨県と静岡県の県境にある赤石山脈が最も北側に位置し、中央に飛騨山脈、最も南側に八ヶ岳が位置している。                      4. 最も北側に岐阜県と長野県の県境に位置する飛騨山脈があり、その南側に木曽山脈、さらに南側の長野・山梨・静岡にまたがって赤石山脈が位置している。
- 
- 問5 日本のような中緯度の大陸東岸で見られる、夏と冬で吹く方向が反対になる風を何といいますか。この風は、冬はシベリア大陸から、夏は太平洋から吹き、日本の気候に大きな影響を与えます。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. 偏西風                      2. 季節風                      3. 貿易風                      4. 海陸風
- 
- 問6 日本の気候区分のうち、冬に北西の季節風の影響を受けて雪が多く降り、夏は太平洋側に比べて晴天の日が多い地域について述べたものとして、正しい記述を選びなさい。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
1. 夏に降水量が集中し、冬は乾燥して晴天が続く太平洋側の気候と全く同じ特徴である。                      2. 周囲を山に囲まれた盆地特有の気候であり、夏と冬の気温差が非常に大きく、年中降水量が少ない。                      3. 一年中降水量が少なく、冬の冷え込みが非常に厳しい北海道のような特徴を持っている。                      4. 冬の降水量が多いという特徴があり、雨温図では1月や12月のグラフが夏よりも高くなる傾向がある。
- 
- 問7 日本の気候区分において、太平洋側の気候に見られる「冬に晴天が多く、乾燥する」という仕組みの背景にある、地形と気流の関係を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2017年 三重県公立入試 類似)
1. 冬になるとシベリア高気圧が南下し、太平洋の湿った空気が日本列島に到達するのを完全に遮断してしまうため。                      2. 太平洋側を流れる暖流によって空気が温められ、上昇気流が発生することで雲が消散し、乾燥した天気が続くため。                      3. 冬の季節風が中央の山地を越える際、日本海側に水分を落としたあと、乾いた風となって太平洋側に吹き降りるため。                      4. 瀬戸内海沿岸と同様に、北側の中国山地と南側の四国山地の両方によって湿った季節風が遮断されるため。
- 
- 問8 平地が少ない都市で行われる「山地造成と海面埋め立て」による開発手法について、この手法で生まれた土地の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2023年 石川県公立入試 類似)
1. 山地側：歴史的建造物の保存地区／海側：大規模な水田                      2. 山地側：ニュータウン（住宅地）／海側：人工島（市街地・港湾施設）                      3. 山地側：採石場／海側：干拓による大規模農場                      4. 山地側：工業団地／海側：森林公園
- 
- 問9 ある日本の都市の気象統計において、年平均気温が約18℃、年降水量が約1250mmであり、7月から8月にかけて気温が最も高く、6月と9月から10月にかけて降水量の山が二つある場合、この都市の冬（12月～2月）の気候の仕組みとして適切なものはどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 北西からの季節風が山脈を越えて吹き下ろすため、乾燥した晴天の日が多くなる。                      2. 暖流である日本海海流の上を通る湿った季節風により、大量の雪が降る。                      3. 北東から吹く冷たく湿った気流（やませ）の影響で、気温が上がらず雨が降りやすくなる。                      4. 赤道付近で発生する熱帯低気圧が頻繁に通過するため、夏よりも降水量が多くなる。
- 
- 問10 日本の夏の気候において、太平洋から奥羽山脈などの山地を越えて日本海側へと流れる風の動きに着目したとき、その風の性質と天候への影響について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
1. 太平洋から吹く湿った空気が山脈にぶつかって上昇することで、太平洋側に雨を降らせ、山を越えた後は乾燥した風となる。                      2. 日本海側から吹き込む湿った空気が山地で遮られるため、太平洋側には一年を通じて雨が降らなくなる。                      3. 太平洋側から吹き込む冷たく乾燥した風が山を越えることで、日本海側に猛烈な吹雪をもたらす。                      4. 太平洋から吹く乾燥した空気が山地を越える際に湿気を含み、日本海側に湿った風と大雨をもたらす。
- 
- 問11 日本列島の周辺を流れる海流のうち、太平洋を北上する黒潮（日本海流）から分かれ、九州の北側を通って日本海へと流れ込み、沿岸を北上する暖流の名称を次の中から選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. 対馬海流                      2. リマン海流                      3. 親潮（千島海流）                      4. 千島海流
- 
- 問12 阿賀野川のように蛇行する河川の流域において、等高線のわずかな広がりから確認できる周囲より少し高い「微高地」は、古くから集落や畑として利用されてきました。この土地が、周囲の低い土地ではなく居住地として選ばれた理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 河口付近で堆積した砂が海風を防ぐ役割を果たし、温暖な気候が保たれるから。                      2. 土砂が堆積した栄養豊富な平坦地であり、水を引き込みやすいため大規模な水田開発に適しているから。                      3. 洪水による浸水被害を避けやすく、周囲の低地に比べて水はけが良いため。                      4. 河川が山地を削って作った階段状の地形で、敵の侵入を防ぐ防衛拠点として有利だから。